
Sentence-**私が彼に伝えなかったコト-**

りす君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Sentence - 私が彼に伝えたかったコト -

【Nコード】

N3299B

【作者名】

りす君

【あらすじ】

一人の少女が、一人の青年と離れた時から伝えたかったコト…

（前書き）

この小説を閲覧して下さる読者さんに感謝します…

私が逢いたかったあの彼は今、私の前を歩いてる。私より、大人っぽい彼女を連れて。昔は、私と妹と彼の3人であんな仲が良かったのに…。

運命は酷い…残酷すぎる…

私と妹と彼は、幼い時からいつも一緒に遊んでいた。彼は小学校に入学しても私と妹と仲良くしてくれた。彼はいつも優しくかった。私がクラスの男子からいじめられた時に、いじめっ子に対して本気で怒ってくれたり、妹が迷子になったときも自分の妹のように必死に捜してくれたり…

そんな事もあり、私は彼の事が好きだった。でも、妹の方が彼の事

を心から愛していた。だから、私は一旦身を引いて妹と彼の恋路を応援した。でも、やはり運命は残酷だった…

彼は高校生の時、彼の父親の転勤で東京から遠くの町に引っ越す事になった。妹は数日間、自分の部屋に閉じ籠って泣いていた。私だって淋しかった。もう、彼に逢えないと思うと胸が苦しくなった。

でも、これも運命なんだと心の中で整理したので、悲しんでいたのもそう長くは無かった。でも、妹は違った…

妹は、彼と別れてから精神が乱れてリストカットを何度もして、拳げの果てに自分からトラックの前に立って轢かれて死んだ…。 1
5歳という若さで人生の幕を綴じた。

普通なら、私は妹を殺したも同然の彼を恨みたかった…でも、恨めなかつた。
理由は簡単だつた

“ 彼に心底惚れていたから。
”

だから恨めなかつた。

あれから数年後の今、私の目の前に彼がいる。彼は大人な彼女の長く美しい黒髪を撫でている。
私は、彼に私の思いが伝わらない事なんて解っていた…けど、どうしても伝えなかつた、これで彼への恋をきっぱりと終わらせたかつた。

私は、彼の背中に小さな声で呟いた。

「私はあなたが好きです。」

呟いた後、私はある事を思い付いて、急いで家に帰った。

私が思い付いたのは…彼への今の私の思いを文で表そうという考え
だった…。

(後書き)

読んで下さり、ありがとうございました…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3299b/>

Sentence-私が彼に伝えたかったコト-

2011年1月1日15時23分発行